

71 精神科的疾患の脳血流シンチグラム

堀川 歩、勝山直文、大田 豊、諸見里秀和、中野政雄（琉球大学放射線科）

今回、我々はCTまたはMRIで異常所見が著明でないにもかかわらず、脳血流シンチで異常所見を認めた精神科的疾患21例（脳血管障害が原因で精神科的な症状のあるものもふくむ）について検討した。そのうち19例はI123-IMP、2例はTc99m-HM-PAOを用いた。疾患別では脳血管障害によるもの7例、Alzheimer型痴呆4例、Parkinson病2例の順であった。

全例を通じて深部灰白質の血流は比較的保たれており、小脳、脳幹に血流低下の認められるものは数例ずつであった。脳血管障害例では主に前頭および側頭葉、Parkinson病では大脳全体に血流低下を認めた。I123-IMP後期像では多くの症例で様々な再分布像を認めたが、一部には著明な再分布像をみとめるものもあった。

72 精神科領域における ^{123}I -IMP SPECT CT像について

山崎俊江、鈴木輝康、山本逸雄、森田陸司（滋賀医大放射線科） 高橋雅文、大西英雄、増田一孝（滋賀医大放射線部） 佐藤啓二（滋賀医大精神科）

Dementia, Depression, Schizophreniaなどの精神疾患に対して ^{123}I -IMP SPECTが時に施行されている。過去2年間の症例について精神病態による経時的SPECT像の変化、薬物治療による変化、Dementiaの有無と程度によるSPECT像の比較を行った。また症例によってはearly imageだけでなくdelayed imageも撮影し検討した。精神科領域においてはその病態により種々の変化のあるパターンが得られた。

73 脳腫瘍例での $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -HM-PAO及び ^{123}I -IMP脳血流シンチグラフィの検討

野口一成、岩下慎二、田之上供明、田口正人、中別府良昭、中條政敏（鹿児島大学放射線科）

$^{99\text{m}}\text{Tc}$ -HM-PAOと ^{123}I -IMPの脳腫瘍への集積性を比較検討したので報告する。PAOシンチグラフィの対象は脳腫瘍16例で、方法は $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -HM-PAO 740MBq静注5分後より頭部のplanar及びSPECTイメージを得、T/N比を算出した。集積増加例はmeningioma 7例、ependimoma 1例であり、集積低下例はmeningioma 2例、astrocytoma grade III 2例、origodendroglioma 2例、brain meta 2例であった。IMPシンチグラフィの対象は脳腫瘍14例で、方法は ^{123}I -IMP 111MBq静注20分後と4時間後に頭部のplanar及びSPECTイメージを得、T/N比を算出した。本シンチグラフィでは全例defect像を呈し、PAOシンチグラフィとの間に乖離が認められた。